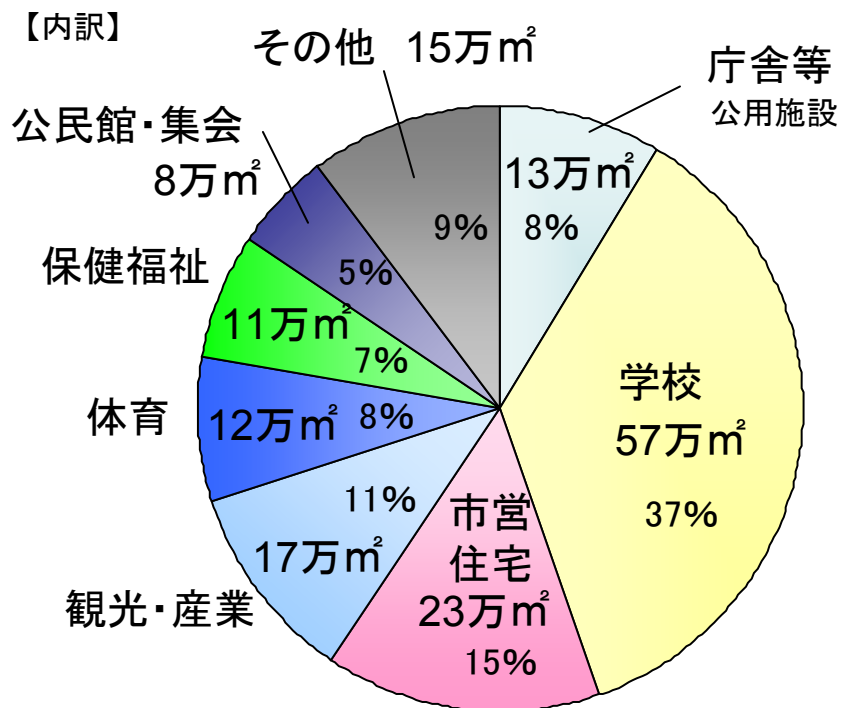


1. 公共施設の状況

建物延床面積は156万㎡(H23年3月末現在)

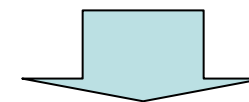
(10年前は126万㎡ ⇒ エムウェーブ約10個分の増)



※H23年度版 市政概要:市有財産(土地及び建物から)

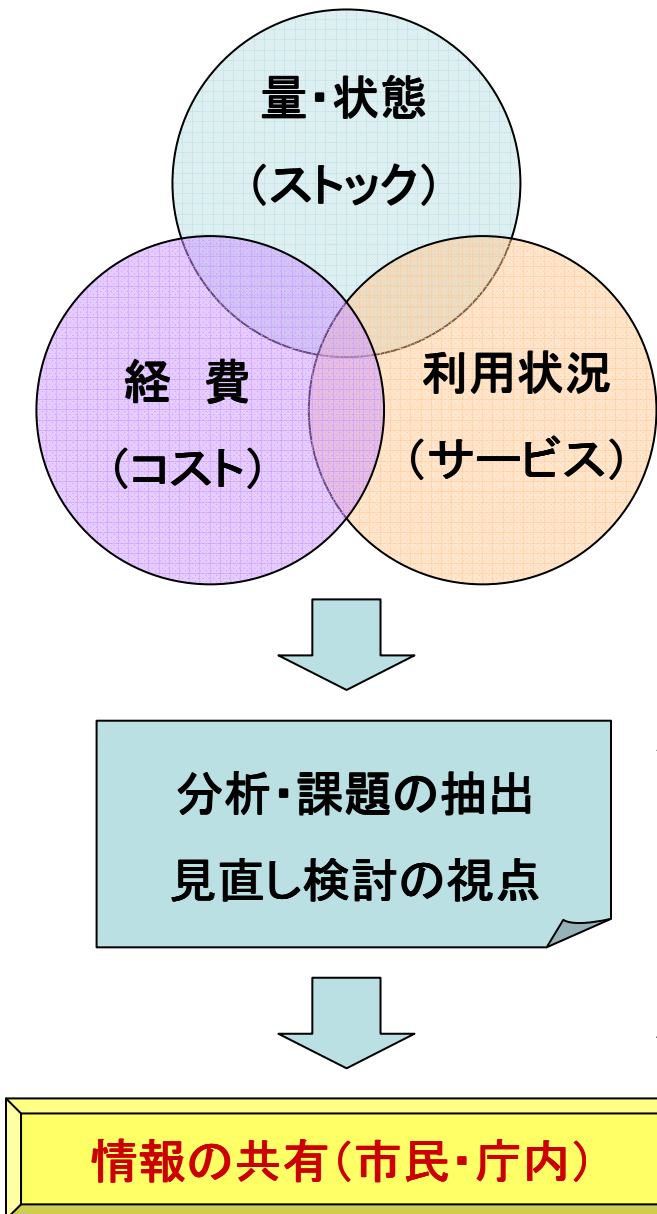
◆課題

- ・ 施設機能の重複や配置の偏在
- ・ 利用状況・効率の低い施設
- ・ 耐用年数を過ぎている施設
- ・ 維持管理費の増、大規模改修 など



公共施設が直面する諸問題の解決は、今後の行財政運営上、最重要課題となる。公共施設の将来のあるべき姿を検討していく上で、まずは、**公共施設の全体像を捉え、課題とともに市民に公開し、情報を共有する必要がある。**

2. 公共施設白書の作成



(1) 対象施設

- ・全ての建物(普通財産の一部施設を含む。)
※ただし、原則200㎡以下の小規模施設、軽易な倉庫、公衆トイレ、文化財は対象から除く。
- ・道路、橋りょう、公園、上下水道のインフラ施設
※インフラ施設は、将来にわたる維持管理費や更新に要する費用(概算)を推計する。

(2) 白書の目的

- ・三つの視点による施設の現状把握
- ・分析、課題の抽出と今後の見直し検討の視点(基本的な考え方)を提示
- ・市民との情報共有、庁内共通認識の形成

(3) 総合的な分析

過去の審議会等からの提言による施設の分類方法などを活用しながら、総合的に分析・検討を行う。

- 【H18 長野市財政構造改革懇話会提言】 施設類型化モデル
- 【H22 長野市行政改革推進審議会提言】 公共施設見直しの指標

3. 公共施設白書の内容

個々の施設について、建物(ストック)の状況、行政サービスの利用状況、施設や事業運営にかかるコストの3面から実態を的確に把握し、それぞれの施設の現状と課題を「可視化」する。

ストック情報

サービス情報

コスト情報

建物 情報	<ul style="list-style-type: none">・概要 (施設数・規模等)・物理的状況 (老朽化・耐震・バリアフリー)・スペース構成など
------------------	---

利用 状況	<ul style="list-style-type: none">・設置目的、事業概要・利用対象・管轄エリアの状況・施設構成・利用状況 など
------------------	---

運営 状況	<ul style="list-style-type: none">・運営形態・運営日・運営実態・運営人員・収入・支出状況など
------------------	--

トータルコスト	事業運営コスト	<ul style="list-style-type: none">・人件費・事業費・事業委託費・その他物件費
	施設コスト	<ul style="list-style-type: none">・維持管理費 (光熱水費) (建物管理委託費) (小破修繕費)・老朽箇所修繕費・大規模改修費・減価償却費



4. 公共施設白書の活用、見直しの進め方

Step1

公共施設白書の作成と公表

公共施設の現状と課題を分かりやすく「可視化」

分析結果に基づき、今後の見直し検討の視点を示す。

議会・市民等への説明を実施

Step2

個別施設の対応方向の明確化

見直し検討の視点と現状を踏まえて、個別の施設について評価・検証を行い、今後のあり方にかかる対応方向を明確にする。

Step3

(仮)公共施設再配置計画の策定

(アクションプラン)

(長寿命化計画)

